

新しい年が明け、小牧山はいよいよ織田信長築城450年という節目の年を迎えました。約10年前に小牧山で発掘調査に入った当初、信長築城当時の城の遺構がこれほど良好に保存されているとは担当者



N区（調査前）

小牧山城

はつらつがわら版

N区の調査を進めています

をはじめ誰も予想していませんでした。それが今や皆様に大きな関心を寄せていただくようになったことに、深い感慨を覚えます。

さて、発掘調査はいよいよ主郭（本丸）の東側、N区と名付けた調査区に進んでいます。ここには、左の古城絵図にあるように本丸東側に位置する出入口（虎口）がある可能性があります。城の構造を知る重要な手がかりが得られるのではと期待しています。

第12号

20130117

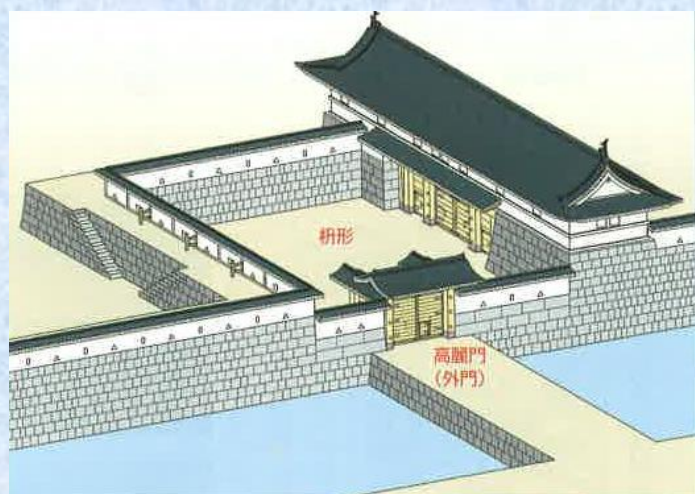


★ 小牧村古城絵図（部分拡）
★ 印がN区



こぐち ～「虎口」とは～

城の出入口を虎口といいます。虎口は「小口」の当て字らしく、古くは曲輪（平坦面）へ通じる狭い入口を意味したようです。本丸の虎口は表の“大手”と裏の“搦手”の少なくとも2つを設けます。桃山時代以降には右図のような四角形の広場をもつ「枅形虎口」が出現し、その内外に門や櫓が作られるようになります。



『城のつくり方事典』三浦正幸著（小学館より）

調査中ご迷惑をおかけしますがご理解とご協力をお願いします

小牧市教育委員会